

令和6年度第3回広島県青少年健全育成審議会議事録

1 開催日時及び場所

令和7年1月16日（木）15時10分～17時30分

広島県庁南館1階101会議室（広島市中区基町10-52）

2 委員の現在数及び審議会に出席した委員の数

委員の現在数 10人

出席委員数 10人

3 出席した委員の氏名

秋野成人、生田真紀、板倉妙子、岩永誠、内垣戸貴之、大平久美子、岡原秀樹、戸川喜史、新延浩二、船本夕里亜

4 議題

広島県青少年健全育成条例に基づく青少年に有益な映画の推奨について

映画「惑星ラブソング」

5 担当部署

広島県環境県民局県民活動課 TEL（082）513-2740（ダイヤルイン）

6 会議の内容

(1) 開会

委員総数10名のうち10名が出席し、広島県青少年健全育成審議会規則第3条第3項により、定足数を満たしていることを事務局が確認した。

(2) 議事

広島県青少年健全育成条例に基づく青少年に有益な映画の推奨について

ア 推奨基準の確認等

事務局から、資料1により作品の概要、資料2により推奨基準について説明した。

イ 映画の鑑賞

審議対象作品「惑星ラブソング」を鑑賞した。

ウ 審議

（会長）

ただいま観賞した惑星ラブソングについて、皆様から一言ずつ感想を聞かせていただき、それをまとめる形で推奨するか否かを議論させていただきたい。

（委員）

いろいろな平和学習や行事において、広島で生まれ育って原爆を知っているご家族の方の話を聞くと、本当に重い課題だと思う。

伝承の方を呼んで子供たちに話を聞かせていただいたが、原爆を体験した方の家族の方から伝承は少し離れた感じのことなのでという言い方をされたこともある。平和がどれだけ大事かということ子供たちに伝える意味では、この映画は最初はわかりづらかったと思うが、一人ひとりが考えていけないかと伝えるような映画になっている気がした。みんなに見てもらいたいのもよいのではないかなと思う。

(委員)

戦争を扱った映画は悲惨な側面を強く訴えたものが多いが、この映画は全然そういうところはない。むしろ日常生活の積み重ねの中に平和があることがよくわかる作品だと思う。

昔のにぎやかな街が一瞬にして奪われていくが、奪われていくというところを描いているのではなく、そこには日常がありそれを呼び起こしてくれて、そこの人たちの営みが再現された。何か一つのきっかけで日々の生活の中で平和の大切さを呼び起こしてくれるという意味においてはすごく良かったと思う。

子どもたちが辛い、嫌だという体験としての戦争ではなく、日々の生活を積み重ねていく上での平和を考えてもらうきっかけになると思う。

(委員)

広島を見たことがある場所が出てくる映画で、子供はここは知っているみたいに話しながら最終的には平和にするのはどうしたらいいのだろうと考えさせるような映画だったので、面白く見られるのではないかと思う。全体的に暗さをそこまで感じなかったので、良いのではないかと思う。

(委員)

来年、戦後 80 年ということで、こういう映画がたくさん作られると思うが、平和関連とか原爆関連はどうしても暗いとか怖いと特に若い子たちは敬遠するが、これはそういうところがなくずっと入り込む。その意味で宇宙人を出してきたと思う。子供からすれば、そういう興味から入っていき、しかも怖いとか暗いシーンがないので、こういうタイプの映画が戦後 80 年の年に公開されるのは良いと思う。ただ、子供が見るには少し長いと思う。

(委員)

最初穏やかに入って行って広島街並も出てきて馴染みやすく入り込みやすい映画ではないかと思う。

青少年健全育成条例による推奨及び指定に関する基準で考えると、平和に対する考えを深めたり、人間としての愛情を豊かに育てるものというところにも繋がっていくのではないかと感じた。

(委員)

わかりにくい点もあると感じたが、子供たちが考えてみるという作品なのかなと思う。戦後 80 年の節目に、戦争の時の原爆や今現在の原爆の状況も知ってもらえる映画で、メッセージがいろいろ詰まっているので子供たちが自ら考えたり判断力を養うものになっている点で良い作品だと思う。また、広島美しい景色を知ってもらえる作品だと思う。

(委員)

学校現場でどう使われるかという視点で見ると、難しさが残る。何かしら見た後のアクションがないと、例えば祈るだけではダメだったみたいなメッセージや宇宙人のキャラクターは我々の鏡の存在で自分たちの今や過去を少し偶像化したものだと思うが、そういったところに気が付かないまま終わっていく可能性がある気がしたので、何かしらの形で見た後にしっかり考えてもらう機会を作ると映画の良さをより実感してもらい道筋になるのではないかと思う。

(委員)

皆様がおっしゃったように最初のうちはわかりづらかった。宇宙人と若者と小学生がいつリンクするのだろうと考えながら見ていた。

誰の目線で見るとかは、若い方は大学生の目線で、小学生が見れば小学生の目線で見るとは思うが、最終的にはそれぞれが映画のテーマについて考えることに繋がっていくと思う。

(委員)

小学校の頃は広島市内では平和学習が夏休み前から行われていて、すごく怖くてしんどかった。現在、市内から離れると、平和学習はあまりされていない。温度差が結構ある。この映画は、ファンタジーと書いてあるように、子供にとって見やすいのではないかと思う。ただ、始めのほうは展開が早くてついていくのがやっとだったのでしんどいと思ったが、最終的には平和や核を考える上で良いと思う。

(会長)

いろいろな方たちとお話する中で、広島の子供は大人の虚構を嫌がるというか、毛嫌いするところがあるように感じていた。大人が慣れている虚構に、表向きでも潜在的な部分でも受け入れないがそれでも従っているんだと。その意味では今回の映画は虚構と真実を取り上げて、今の状態は真実から徐々に虚構に映っているのではないかと、そういうところを気付かせるような意味合いがあるのかなと思った。そういう意味でいけば、確かに子供に見せたい部分はあるが、大人も含めて、もう一度平和の構築について考え直す機会を与えていると感じた。青少年に議論する機会とか自分たちの意見を述べる機会や考える機会を作る必要がある。自由に意見が出せるようなところがこの映画から生み出されると思う。

平和について子供たちに聞くとほぼ同じプロトタイプの答えが返ってきて、オリジナルの意見を出すことがない。そういう意味ではこの映画は自由な発想ができる素材を与えてくれている。考えてもらうには良い機会だと思う。それを使って皆でどうしていくみたいな話をする機会があってもよいと思うし、立場の違いとか誰に入れ込むかという違いも含めていろいろ議論できたらよいと思う。

(会長)

全体として、皆様のご意見を伺っている限り推奨することでよいのではないかと。ただ先ほどご意見があったように、いろいろな立場あるいはどこに思いを入れるかでそれぞれ見方が出てくるところがあるだろう。そういったところにも配慮して家庭や教育現場で、自分で考えてみて自分の言葉で表現するという機会に繋がっていけばよいのではないかとこの補足をされた方がよいと思う。単純に良い映画ではなく、少しフォローがいると思う。

推奨の理由としては、基準の1番の人間としての愛情を豊かに育てるものと、5番の判断力を養うものでよろしいか。事務局作成の推奨理由については、修正した方がよいと思うので、私に一任していただき修正してよいか。

(各委員)

異議なし。

(会長)

諮問県活第 856 号青少年に有益な映画の推奨について、推奨することで決定してよいか。

(各委員)

異議なし。

(会長)

皆様のご賛同をいただいたのでそのように決定する。推奨理由については私に一任していただく。

その他全体を通じて何かご意見がありましたら。

(委員)

今平和記念公園レストハウスでVRで当時の現状などを見ることができとてもよいと思うが、結構料金が高いので子供たちに見せるのに何かいい方法はないか。

(委員)

多分、各学校で一人一台タブレットが配布されているので、VRではなく、ARのようなことは仕組みとしてはできると思うがそういったものを作らないといけない。学校にある環境を使えば、それに近いことができる環境ではある。

(会長)

他にご意見がなければ本日の議事は終了する。

(3) 閉会

7 資料一覧

- 資料 1 青少年に有益な映画等の推奨について（県知事諮問）
映画「惑星ラブソング」
- 資料 2 広島県青少年健全育成条例（抜粋：映画等推奨関係部分）
広島県青少年健全育成条例に基づく有益映画等推奨要領
広島県青少年健全育成条例による推奨及び指定に関する基準
（抜粋：優良映画等推奨関係部分）
- 参考資料 1 委員の審議参加に関する申し合わせ事項